

令和３年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成	今年度の 重点目標	1 主体的な学びの推進 2 豊かな人間性の育成 3 地域に信頼される教育の展開 4 働き方改革の推進
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。		

年 度 当 初					中 間 評 価 ・ 最 終 評 価	
評価項目	具体項目	現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 主体的な学 びの推進	アクティブ・ラー ニング等による授 業改善と適正な評 価	I C Tを活用したアクティブ・ ラーニング型授業を各教科で実践 するとともに、開講科目ごとの ルーブリックを作成してパフォー マンス評価を実施している。	・教員の授業スキルの向上 ・授業アンケート「この授業は自分 にとって満足のいくものだった」 の問いに、肯定的な回答90%以上	・授業アンケートを全教員が確実に実 施し、授業改善を行う。 ・各教科ともルーブリックを作成し、 パフォーマンス評価を確実に実行す る。 ・chromebookを活用した授業展開の工 夫や課題等の配信を行う。		
	S S H事業による 科学的探究心・情 報発信力・実践力 の育成	各種科学コンテスト・土曜授業等 実施事業への参加など内外コンペ に積極的に打って出ている。 ・総参加者 71件・1256人 ・予選を通過して上位大会へ出場 した者 12件・52人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施 事業への参加など内外コンクールやコ ンペへの参加者数 ・総参加者 50件・800人以上 ・予選を通過して上位大会へ出場す る者 10件・100人以上	・「打って出る」目標と研究を結びつ ける取り組みを継続する。 ・学校設定科目「課題探究基礎」 「課題探究応用」「課題探究発展」 によって、主体的探究活動を推進す る。		
	進路指導の充実	国公立大学合格者269名（うち、現 役合格者206名）、難関大学合格者 61名となった。	・国公立大学合格者200名以上 （現役合格者170名以上） ・難関大学合格者70名以上	・総合選抜型入試、学校推薦型選抜入 試を適切に活用する。 ・二次試験対策の強化（授業・講習）		
2 豊かな人間 性の育成	主体的・自律的態 度の育成	・環境整備委員会を中心に、掃除の 徹底を行っている。 ・総遅刻者数は延べ287人で対前 年度比19%増であった。 ・問題行動件数は5件であった。	・規範意識の高揚 ・品格と矜持をもった振る舞い ・主権者意識の高揚 ・T E A Sの推進 ・遅刻者数対前年比20%減 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底 ・お掃除マイスターによる講演会、 主権者教育など、各種領域教育を 実施し、社会参画への態度を育成 する。 ・遅刻確認票による遅刻指導の徹底 ・自転車用ヘルメットの着用を推進 する。		
	部活動の奨励	新型コロナウイルス感染症の影響 で大会が中止になったり代替大会 となったが、各部が活躍し、生徒 相互の良い刺激となっている。	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活 動を増やす。 ・「部活躍報告」を行うことよって、 賞賛する機会を設ける。		
	体験的な学びの推 進	国際交流・人権教育などを通して 多面的な教育を展開しているが、 追求する姿勢が足りず、妥協して いる生徒も多い。	・人権教育の推進 ・異世代・異文化交流の推進 ・読書活動の充実 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求す る生徒の育成	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 ・海外研究機関とのオンライン交流 ・体験型ワールドカフェ形式の人権教 育公開L H Rの実施		
3 地域に信頼 される教育 の展開	P T A活動の推進	P T Aの各委員会（総務、人権教 育推進、生徒育成、進路）が役員 主体で活発に活動している。	保護者と教職員の連携強化によるP T A活動の更なる活性化	P T Aのニーズに対応した事業内容の 見直しを進める。		
	地域への発信	・積極的な情報発信を行い、学校 理解を進めている。 ・学校運営協議会を開催し、地域 住民の理解と協力を得た学校運 営を行っている。	・積極的な学校情報の発信による地域 理解の促進 ・保護者への学校理解の促進 ・地域との連携強化や学校運営協議会 との適切な連携・協働による地域と ともにある学校づくり	・ホームページにより積極的に学校情 報を発信する。 ・学校運営協議会を定期的に開催し、 熟議をして地域等との連携を深めた 学校運営を行う。		
4 働き方改革 の推進	時間外業務時間の 削減	教職員の1人あたりの時間外業務 時間は令和2年度は11.7時間/月 であった。	教職員の1人あたりの時間外業務時間 対令和2年度比5%減	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係 る方針」を遵守する。		
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業 務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会 の開催回数を削減する。	会議の回数削減等による業務の効率化 を進める。		

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要